

魚沼市まちづくり市民会議 について

魚沼市まちづくり委員会 会長 平井正尚

まちづくり委員会が主催する全市民を対象とする市民会議は、第1回「まちづくりの実践活動」、第2回「市民と魚沼市でつくる防災体制」、第3回「地域力と自主防災」のテーマで本年度3回実施しました。

魚沼市はいろんな課題を抱えていますから、テーマとする材料は広範に及びます。しかし、市民会議のテーマとするのにはそれなりのポイントがあると思います。

- ① 時機を得たもの、タイムリーなことであること
- ② 市民の関心度が高いものであること
- ③ 会議に参画してくれる人の数が多く予想できるものかどうかということ
- ④ 会議の内容や進行が硬すぎないこと
- ⑤ ただ聞くだけの会にならないこと
- ⑥ 次につなげられる結果を残すこと



第2回まちづくり市民会議（10月30日）
防災第1弾 パネルディスカッションのようす

その基本はあくまで市の目標とする「パートナーシップで創る参画と自立のまちづくり」であり、平成22年4月から施行された、まちづくり基本条例に沿った市民と行政との協働です。

さて、平成23年は豪雪・東日本大震災・新潟福島豪雨など災害が多発したことから10月の第2回市民会議は「市民と魚沼市でつくる防災体制」と題して行いました。“自分たちのまちは自分たちで守ろう”というサブテーマを掲げたにもかかわらず、課題がいっぱい出てきて、当初の目的を達成できなかったという反省点が残りました。参加者は約110人を数え関心度の高さを感じましたが、その内容が消化不良であったという運営委員会の結論でした。そんなことからもう1回『防災』をテーマにして第3回の市民会議をやろうということになった次第です。去る2月19日（日）に会場も同じ、地域振興センターで「地域力と自主防災」として開催しました。“災害から学ぶ新たな地域づくり”を中味に、平成16年・平成23年と大きな水害体験をした三条市の防災対策室の担当者をお招きし、災害事例、その対策を詳しくお話いただきました。事例に即した話しの内容はとて分かりやすく、魚沼市にとっても大いに参考になるものでした。

中川副市長からは昨年の7.29水害の検証結果報告をしてもらい、そのあとで4人くらいの少人数グループで時間を区切ってローテーションする「ワールドカフェ」方式で参加者全員が意見交換しました。お茶やお菓子も用意してなるべく気軽な雰囲気作りに配慮したつもりです。皆さんの意見を総合すると、災害に対する備えは万全かどうか、いざ災害が発生したときの対応、体制、情報の伝達・共有（広報広聴のありかた）、市と市民の連携などなど、まだまだ課題が多いと考えている方が多数のようです。まさに災害事例に学び、その現状や問題点の検証・評価を踏まえて解決策や仕組みづくりを図っていかねばならないと思います。

今後も市民と行政とが同等の立場でテーブルにつき、発展的な意見のキャッチボールを続けていくことが何より大切なことではないでしょうか。



第3回まちづくり市民会議（2月19日）
防災第2弾 意見交換（ワールドカフェ）のようす



各分野の活動状況

生活 自然環境



11月26日 有機センター見学

堆肥の醗酵中で湯気が見られる
「思ったより臭いが少ないな!!」

有機センターの視察について

- 視察日時 11月26日(土)
- 参加者 17人

提言書の「有機センターとコンポストを活用した生ゴミの肥料化」を実現するために有機センターの視察を行いました。有機センターでは、牛糞をベースに他の畜糞・きのこの菌床・もみガラ・食品残さ等を混合したものを醗酵させて堆肥を作っています。

有機センターの施設見学と意見交換を行いました。家庭生ごみを肥料化するためには、施設の老朽化・堆肥化するための原材料の調合調整方法・家庭生ごみに異物混入や生ごみの収集方法等の課題をクリアしなければならず、また、将来にT P P参加した場合の畜産業への影響も見据えて検討して行く必要があります。

草花いっぱい運動について

井口新田の交差点にある国土交通省の花壇が利用されていなかったことから、この場所を借りて花を植え「草花いっぱい運動」の第一歩とし、下見を兼ねて花壇や付近のごみ拾いを実施しました。

花壇の花や肥料については、国土交通省から提供があるために費用は掛からず、花壇に植える花の種類や水やり・雑草取りなどの日々の維持管理について検討を進めています。



有機センター見学後のごみ拾い

みんなが歩く道をきれいにしよう!!

福祉健康

福祉健康部会では、地域住民の健康を支える活動を探るため、2月14日、仲丸司医師と上村伯人医師を招いて「明日への地域医療について」講演をいただき、質疑意見交換を行ないました。仲丸医師は、地元の出身で、新潟大学医学部にて荒川教授の指導を受け糖尿病などが専門で、今は小出病院内科医です。上村医師は、上村医院を経営する傍ら、魚沼市健康づくり推進協議会会長・地域医療魚沼学校副校長兼魚沼塾長を務め魚沼地域住民の健康の積み上げに積極的に活動しています。

さて、現状の魚沼地域に於いては、只見線は朝6時から午後1時まで運行がない、など、僻地に於ける公共交通機関問題。また、小出病院では医師の勤務時間が36時間連続勤務になる場合がある、など、医師不足問題等をかかえています。

今回の質疑意見交換では、医師不足の解決策として、医師に負担をかけない地域医療体制づくりが話しあわれました。地域医療に必要な医師を確保するのはもちろんのこと、一番好ましいのは、患者の数を減らす取り組みです。そのためには、

- ① 患者（医療を利用する人）自身の健康の積み上げ
- ② 子宮頸癌ワクチン、肺炎球菌ワクチン、禁煙運動などの病気にならない取り組み
- ③ 「健康づくり推進協議会」「地域医療魚沼学校」と連携する健康活動
- ④ いろんな職種の医療関係者が連携し合って相乗効果をだす仕組みづくり



2月14日 学習会(講師:仲丸司医師)

うーん、勉強になるなあ

魚沼地域の病院に医師が来てもらいやすい環境条件としては、

- ① 医師の家族の生活環境、こどもの教育環境
- ② 医師が医学学会に出て行きやすい環境
- ③ 魚沼地域出身の医師に声をかける

などの話しが出ました。

また、魚沼地域は、新たに基幹病院の設立が決まっており、新小出病院と基幹病院の役割分担が大切です。新小出病院のあり方については「新病院財団法人設立準備委員会」の話し合いが進んでいます。福祉健康部会の委員も新小出病院について関心が高く部会の中で話し合われています。



地域産業

6月11日(日)第1回まちづくり市民会議で、市長に提出した提言書の下記3項目について、実践的な活動に向けて毎月1回の部会を開催しています。

- ①雪中貯蔵食品の開発促進
- ②魚沼の名人・達人のデータベース化
- ③地域ブランド認証機関の立ち上げ

市の関係部署より事例等を紹介してもらうなどして、意見交換を重ねています。

市内には、福山地区の峠の雪室や守門交流促進センターに施設があることがわかりました。また、玉川酒造、ゆきくらフーズ、緑川酒造、大沢加工、グリーンファームなど市内の業者でも独自に雪利用をしています。

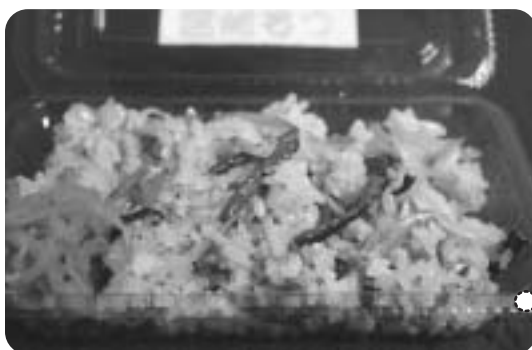
10月には上越安塚区の公益財団法人「雪だるま財団」と津南の農業生産法人(有)大地の視察研修を開催し、雪室の歴史や、雪中貯蔵食品のブランド化の事例など紹介してもらいました。冷気は下にたまるので、上から流さないと、生産物全体を冷やせないのが苦労したとのことでした。

部会の話し合いでは、「魚沼ブランド」に関連して次のような意見がありました。



10月27日 雪室視察(雪だるま財団)

前の冬の雪がまだ残っていて涼しい!!



- 雪室(雪中貯蔵)によって更に付加価値が高くなるものを見つけ、それを売り出していくこと
- ブランドのつながりを考えた認証機関をつくること
- 地域に根ざしたものの、生モツ等、魚沼市にしかないようなものを売り出していくこと
- 開高めしのコンテストを開催し、話題づくりと味のレベルアップにつとめること

魚沼A級グルメ「開高めし」うまそう!!

名人、達人では、県文化財指定の中には無形文化財として茅葺職人などもあります。

現在の文化財指定や魚沼の達人認定制度では、高齢な名人や達人が多く、なかなか活発に動ける人が少ないので、もっと若い人の発掘や育成もしなければなりません。

今後、漬物名人など生活に密着した名人、地域の伝統や文化を受け継いでいる名人、達人を見つけ出し、認定して活躍の場をつくることなどを検討していきます。



教育文化



教育文化部会は、定例会を毎月1回ペースで開催し、勉強会・意見交換など行っています。

この1月15日には、今年目標の一翼でもある「伝統文化を継承する運動（小正月行事の定着）」の一環として、小正月の行事イベントを開催しました。

広神地域今泉地区の方々と一緒に賽の神を体験させていただきながら、来場の方々に『魚沼市伝統文化の継承と寺子屋』についてのアンケートにもご協力いただきました。

広神コミュニティセンターに会場を移し「小正月あそびイベント」を行いました。最初に山之内喜七さんから小正月の由来などのたいへん有意義なお話を聞きました。その後に昔話の語り



1月15日 小正月あそびイベント

親子で楽しくカルタとり!!

りを楽しく聞き、最後に正月・小正月等にお家でよく遊んだであろうカルタ遊びをしました。百人一首、いろはカルタ、魚沼方言かるた、広神かるたなど古典から地域のカルタまで様々な種類のカルタの場をつくり、いろいろ体験してもらいました。読み手の方々、その他たくさん各方面からのご協力をいただき、ありがとうございました。

今後も目標に向け活動し、実りある活気のある部会にしていきたいと思ひます。皆さん、いつでもご参加ください。



今泉地区の賽の神

点火1秒前!!

参照：平成23年度「魚沼市まちづくり委員会総会」での教育文化部会提言

- ①伝統文化を継承する運動〔魚沼市の休日（小正月1月15日）を定め伝統行事を定着〕
- ②うおぬま寺子屋の創出〔地域コミュニティ教育のしくみづくり〕

魚沼市まちづくり委員会 参加者大募集

「交流・学び・実践で自分づくりとまちづくり!!」

一緒にまちづくりを楽しむ仲間を募集しています。各分野の会合は毎月1回開催され、中立・公正の立場で意見を出し合い、和気あいあいと話し合いが行われています。また、まちづくりの実践的活動にも取り組んでいます。肩の力を抜いて気軽に参加してください。会議は公開です。参観もできます。

参加希望の方は、下記まで興味ある分野にお申し込みください。

連絡先

魚沼市まちづくり室（魚沼市役所湯之谷庁舎）Tel 025-792-9752 / Fax 025-793-1016

E-mail chiiki@city.uonuma.niigata.jp

まちづくり委員会ホームページ <http://www.machidukuri-uonuma.com>

編集後記

大雪も去り、ようやく春めいて来た今日この頃です。昨年の3.11東日本大震災から一年が経ち、被災者の人々にも早く落ち着いて生活が出来る暖かい春が訪れて欲しいものです。ここ魚沼市でも、昨年7月の豪雨水害による復旧工事が順調に進捗していますが、私たち自身も行政頼みにするのでは無く、自らが何時身に降りかかるか解らない自然災害に日頃から備えておくことが必要だと感じます。

まちづくり委員会だより編集長 森山右文

平成24年3月25日 第2号

■発行：魚沼市まちづくり委員会

■編集：まちづくり委員会だより編集委員